

能登半島地震における 被災地支援活動参加報告

～千葉県DWAT派遣 第1班の活動内容～

社会福祉法人くちなし
セルプ・ガーデンハウス
施設長 小林正継

【千葉県DWAT第1班】

＜メンバー構成＞

- ・1チーム5名、5日間の活動期間で招集
- ・職名：施設長（障害）・介護支援専門員2名（高齢）
生活相談員（高齢）・理学療法士（障害）
保有資格：社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員
理学療法士・作業療法士
- ・千葉県DWAT結成後初めての被災地派遣活動のため
千葉県本部担当者も同行する

千葉県社会福祉センター

Chiba Prefectural Social Welfare Center



【千葉県DWAT第1班】

派遣期間：令和6年1月21日～27日

活動期間： // 1月22日～26日（5日間）

派遣場所：石川県金沢市内の1.5次避難所
「いしかわ総合スポーツセンター」

宿泊先：富山県富山市内のホテル

の予定で千葉県を出発する

ところが、緊張と意気込みを抱えて被災地へ向かって
いた新幹線の中で…

全社協『災害福祉支援ネットワーク中央センター』（以下『DWAT本部』）より千葉県本部担当者へ「DWAT本部への応援部隊が欲しいので、千葉県DWATにお願いしたい。1.5次避難所ではなく、石川県庁に来てほしい」と連絡が入り、急遽DWAT本部での活動を行う予定になる。

1月21日夕方、石川県庁のDWAT本部を訪問

- ・1/21現在13府県のDWATが派遣されており、派遣先等ある程度把握できているが、連絡体制が構築されていないので、各チームの活動内容が把握できていない
- ・DWAT本部の体制として全社協と石川県庁職員に加えて、4班（4名）の担当者を配置したい

という課題を抱えていた。

1月22日、千葉県DWATチーム内で2班に分け、各避難所でのDWATチームを訪問し、現状把握を行う

○いしかわ総合スポーツセンター

- ・1.5次避難所にて9チームが活動中

○志賀町・七尾市エリア

- ・富来活性化センターにて2チームが活動中
- ・中島小学校にて1チーム、御禊コミュニティセンターにて1チームが活動中
- ・西湊コミュニティセンター、和倉小学校、山王小学校を2チームが巡回していた

志賀町・七尾市の様子



志賀町・七尾市の様子



1月23日より千葉県DWATチーム内で担当を振分けて活動

○本部（石川県庁内）体制の応援

連絡調整班・記録班・情報分析班を担当し、各チームのシフト表・連絡体制構築システム・連絡先一覧表・宿泊者リスト・各地域リーダー報告様式の作成や、各チーム活動場所見える化作業、第2班への引継ぎ概要作成等を行う

○各DWAT活動の巡回視察（※小林担当）

現地支援班を担当し、1.5次避難所・志賀町・七尾市の各避難所で活動しているDWATチームへの視察や、七尾市での各ミーティングに参加し、状況確認や困っていること等を聴き取り本部へ持ち帰る

本部体制の応援の様子 (石川県庁内)



各DWAT活動の巡回視察

金沢市：1.5次避難所いしかわ総合スポーツセンター視察

志賀町：富来活性化センター・志賀町文化ホール視察

七尾市：中島小学校視察と、七尾市行政・医師・保健師チーム・日赤チーム・JRAT・DWAT等が集まる「保健活動ミーティング」と、その後の「DWATミーティング」に参加する

※巡回しながら志賀町・七尾市内の断水状況や使用できるトイレの箇所を確認も行う

各DWATチーム活動 視察とミーティングの様子



各避難所の様子

※各避難所の写真は全て許可
を得て撮影したものです

















各DWAT活動の巡回視察にて

- ・1/23夕方の七尾市保健活動ミーティングと、その後のDWATミーティングの中で、七尾市より「和倉小学校の避難所にDWATの常駐ができないか？」との要望が出る。
- ・七尾市で活動しているDWAT(4チーム)は京都府DWATがリーダーとなりマネジメントを行っているが、「現状のメンバーでは難しい」との回答であったので、千葉県DWATで話しを預かり本部にて検討することにする。

1月24日 朝、DWAT本部にてミーティング

「和倉小学校へのDWAT常駐の要望」について、他のエリアのDWATの状況で、いしかわ総合スポーツセンターでは9チームが活動しているが、移動は可能か？

→全社協本部長より「移動（予定変更）は難しい」

現在被災地に入っているDWATで対応可能なのは？

→千葉県DWATのみ。必要であれば本日午後からでも和倉小学校へ入る準備をする。

→京都府DWATへ連絡・相談し、翌日1/25～入ることになる。

1月25日、和倉小学校での避難所支援活動開始
七尾市のミーティング後、これまで巡回していた京都府DWA
Tに同行して避難所に入り、各関係者への挨拶と引き継ぎを
行う。

○1/25現在の状況（避難者：95名）

- ・避難所内での住民同士の関係について※口頭報告
- ・フレイルが心配される高齢者が2名
- ・知的障害を持つ3兄弟のいる家庭（8人家族）と避難住民
全体との関係が悪い（マスクをしない・奇声をあげる等）
- ・コロナ陽性者が1名

1月25日、和倉小学校での避難所支援活動開始

七尾市行政職員からも「くれぐれも慎重に入ってほしい」との注意・助言があったため、1日かけて避難所の様子観察をして状況把握に努める。

○1日目の把握

- ・京都市行政職員が避難所運営に携わっており、七尾市行政職員が毎日巡回に来る（DWATの役割の確認）
- ・日赤チームが毎日巡回に来てラウンドしている（福祉的支援が必要と思われる方の状態確認）
- ・避難住民同士の関係の様子※口頭報告

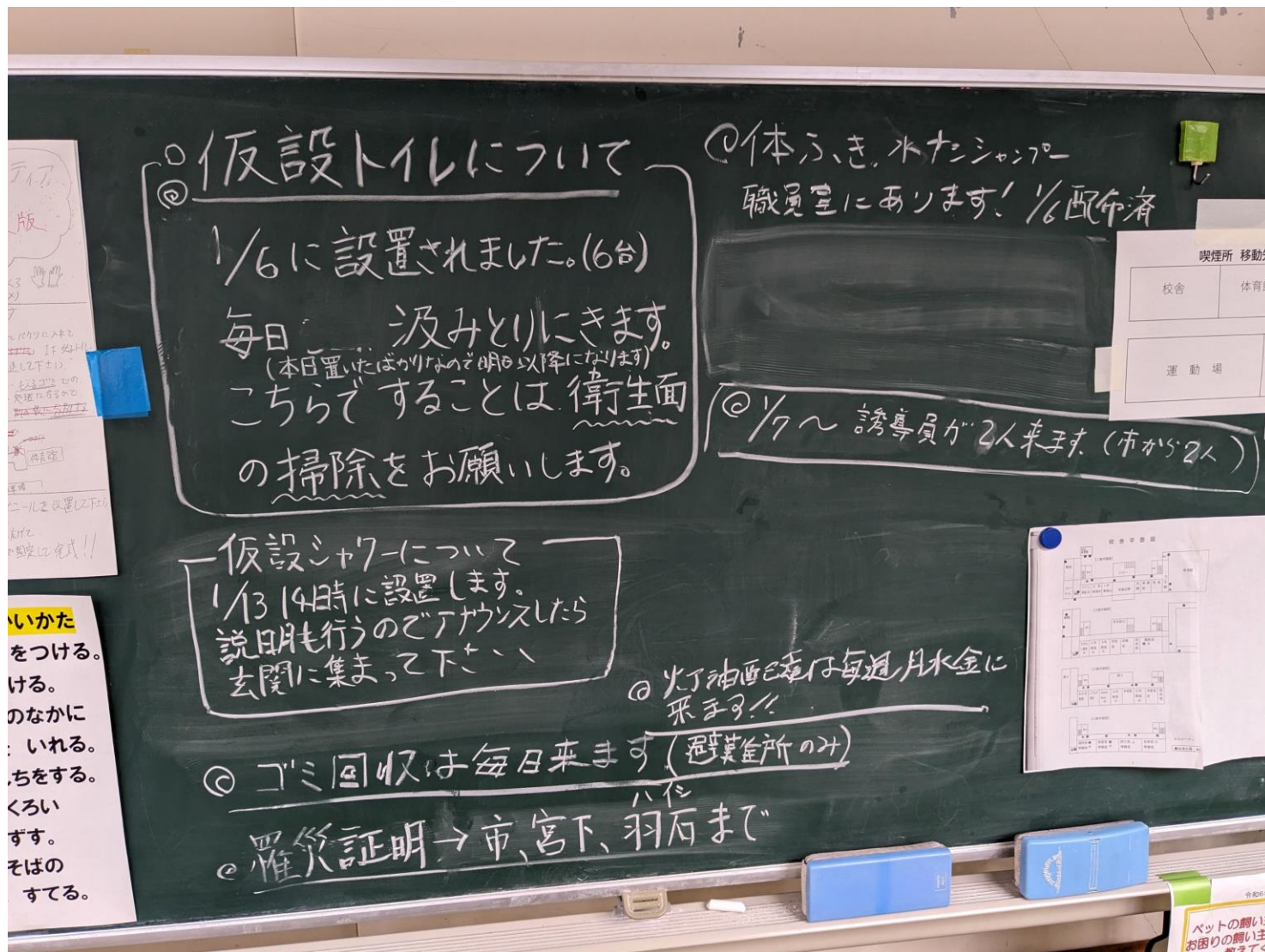
1月25日、和倉小学校での避難所支援活動開始

○1日目の把握

- ・知的障害を持つ3兄弟は関わりを求めている(退屈そう)
- ・段ボールベッドやテントが殆ど入ってきていない
- ・仮設トイレはあるが、学校の各トイレ内で凝固剤の非常用トイレが使用されている
- ・仮設シャワーは1台のみ。テント式で狭いため、高齢者の使用は難しい→2日後に違う2台に入替え予定

※避難所を回りながら住民の方達に挨拶をし「困ったことがあれば気軽に声を掛けてください」と認知してもらう

廊下に日用品が置かれてあったり、連絡事項が書かれたボードを設置していた



1月26日、和倉小学校での避難所支援活動2日目
千葉県DWAT第2班が合流し、引継ぎも含めた活動となる。

○避難所支援活動2日目の主な内容

- ・七尾市ミーティング後から避難所支援活動
- ・七尾市職員、京都市職員、住民代表との避難所運営会議に参加
- ・巡回日赤チームのラウンドに同行
- ・段ボールベッドの搬入、避難住民の方達と組み立て
- ・避難住民との関係作り、コミュニケーション

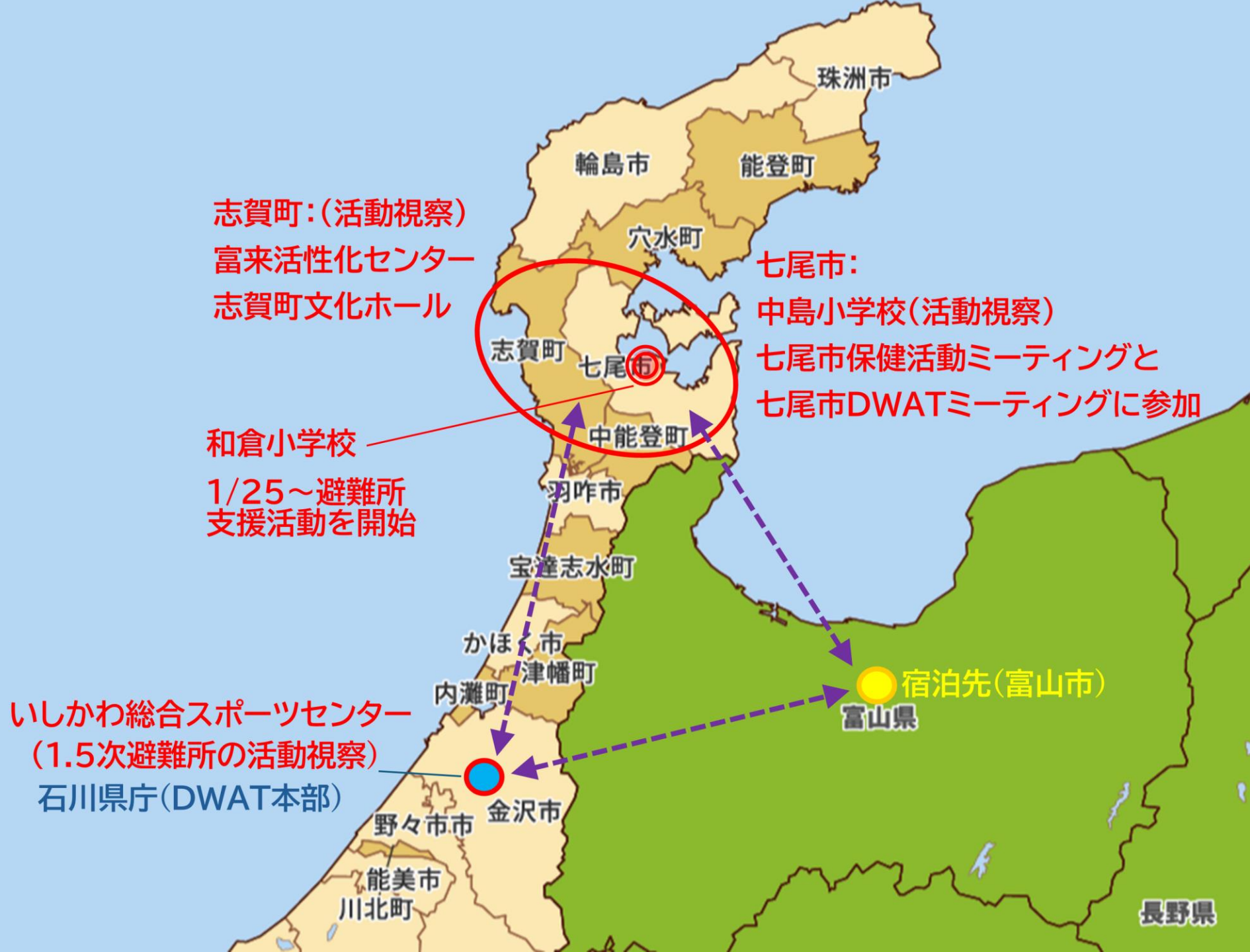
※1/27.28でテント約70張が搬入予定



1月26日、第1班の活動最終日となる。
第2班が合流し、各場所にて引継ぎを含めた活動を行う。

- ・和倉小学校避難所（午前中 1班4名・2班4名）
- ・午後から1班の小林と、2班の2名で各DWAT活動の視察
- ・石川県庁のDWAT本部（1班2名・2班2名）

第1班の活動は、
石川県庁のDWAT本部体制の応援
志賀町・七尾市エリアの各DWAT活動の巡回視察
和倉小学校の避難所支援活動 と広範囲にわたり行った。



【感想】①

- ・被災した人達も、直接支援する人達も本当に大変だと感じた。被災した人達は先の事が見えない中でもお互いに支え合いながら懸命に生きていた。
- ・避難所によって、まだプライベートスペースが確保できていなかったり、お風呂（シャワー）や洗濯環境が整っていない所もあり、全然違う状況である。
公立の大きな施設は整った環境に感じるが、小学校避難所は閉塞感を感じた。

【感想】②

- ・災害支援で必要なものは『人・物・金』と言われるが、被災地で感じたことは、「物資」は足りているが全体的に支援する「人」が足りていない。
- ・例えば「物資」があっても、それを調整する「人」や運搬する「人」も足りない様子であった。
- ・「人」が足りない要因として「宿」と「移動手段」がないこと。支援に来る人の「宿泊先」が遠方になったり「車（レンタカー等）」が手配できなかったりしていた。

【感想】③

- ・七尾市では、行政・医療・保健・福祉関係者のミーティングの他、LINEのオープンチャットを使用した連絡体制を構築しており、情報の共有が図られていた。
- ・DWATも千葉を加えた5府県が活動していたが、京都府DWATがリーダーとなってきちんとマネジメントができていた。
- ・七尾市エリアの連携体制はよく整備されており、今後の被災地支援活動のよい手本になるのでは…？

【感想】④

- ・DWATにおいてもLINEオープンチャットを作っていたり、当日の活動報告をkintoneを使用して行ったりしていたが、全体への統一がうまくいかなかったようである。
- ・今回『災害福祉支援ネットワーク中央センター』が設置されて初めての災害であった。そして予想以上に広範囲での被害があったことから、DWATに限らず様々なところで混乱が続いていたようである。

DWAT本部（全社協）から

「千葉県DWATが手伝ってくれて本当に助かった。皆さんの行動力・対応力がすごかった！ありがとうございました」

七尾市職員から

「和倉小学校にDWATが常駐してくれてすごく安心しました。運営が難しい避難所でしたので、本当に心強いです」

和倉小学校の避難住民より

「遠い所からわざわざ来てくれてありがとね。助かるよ」

5日間だけの活動であったが、少しは役に立てたと感じた。

活動報告は、以上です。

千葉県DWAT 第1班リーダー
セルフ・ガーデンハウス 小林正継